

ホウレンソウの下葉取りや包装

JA全農岐阜 高山にセンター整備



機械で下葉調整、袋詰めされたホウレンソウの状態を確認する関係者ら＝高山市漆垣内町、飛騨青果物パッキングセンター

ホウレンソウは、出荷前に下葉を取り除く調整作業が必要で、多くの生産者が手作業で行っている。高齢化や人手不足でこの作業が大きな負担となっており、生産者の減少にもつながっている。同センターは、生産者に代わって下葉調整から袋詰めまでの作業を請け負う。JA全農岐阜が、JAひだの旧トマト選果場の一角に約4千万円をかけて最新の下葉調整機、包装機などを導入。特定技能外国人を配置し、1日に最大500ケースを処理できる。今後、利用を希望する生産者を募る。

式にはJA職員や生産者ら約30人が出席。JA全農岐阜の西村寿文県本部長は

JA全農岐阜は、飛騨地域の特産「飛騨ほうれんそう」の下葉調整、袋詰め作業を行う「飛騨青果物パッキングセンター」を高山市漆垣内町に整備した。来年4月から本格稼働を前に4日、同センターで開所式が開かれた。

(山田雄大)

機械化で増産に弾み

「非常に労力がかかる調整、袋詰め作業を請け負うことで生産拡大の一助になれば」とあいさつ。飛騨蔬菜出荷組合ほうれんそう部会の中谷賢栄部会長は「ホウレンソウ農家は元気がない状況だが、このセンターを活用することでV字回復することを願う」と期待を込めた。出席者はテープカットを行った後、機械による調整、計量、包装までの工程を見学した。